

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州の建物を木造化・木質化することで2050ゼロカーボンを実現する展示会
事業主体 (連絡先)	信州・絆でつくる優良住宅の会
事業区分	6 産業振興・雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	36,169,504 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

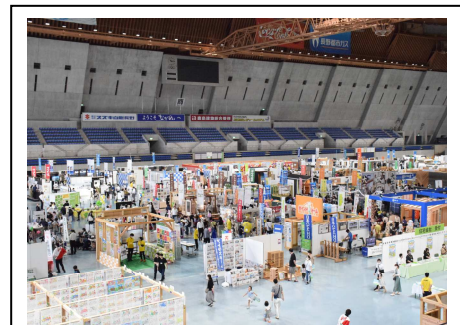
事業内容

(供給側対象) WBS

令和5年6月16日 建築士、施工者、建築主を対象に
建築工学、設計士、建築家等斯界の碩学9組(13名)により建築物
の木造、木質化への最新の知見の講演を実施。
並びに実物大モデルの展示を実施。

(一般ユーザー) わくわくフェア

木材、木質材料及び建材、設備品メーカー多数の高性能機器紹介
とともに、高耐久、省エネの高い建築物が脱炭素の推進に資する
ことをわかりやすく広報。



【 】

【目標・ねらい】

- ① 2050 ゼロカーボンへの取り組み
- ② 長野県産材の利用促進
- ③ ZEH、高耐震、減災まちづくり推進
- ④ 建築物木材利用促進 (県産材利用)

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1) (集客) WBSには参加者790人、受講者延1300人、わくわくフェア約12000人と多数のご来場をいただき盛況となった。
- 2) (供給側) 従来困難と思われていた規模の建築物を木造化、木質化が従来の技能で可能との理解が進み、いくつかの相談案件があった。
- 3) (ユーザー側) 脱炭素への取り組みが省エネで経済性にメリットがあり、快適で、健康リスクの低減にもつながることの視点からZEHゼロエネ住宅、高耐震住宅を啓蒙できた。また地域の気候風土をよく知った地域の優良事業者の紹介の機会ともなった。

※自己評価 【 B 】

【理由】

WBSは初回から関心の高さがあり、成果事例につなげたい。
リフォーム分野への対応強化が必要

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

引き続き建築物の木造化促進、ZEH住宅の促進、高耐震化、を通して減災まちづくりに貢献。
さらに今後は既存住宅の省エネ改修、耐震化改修の推進にも力を入れて、地域の建築事業者の
活性化につなげることに取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第 1 2 号) (第 3 の 8 関係)